



論説委員室から

## 前首相側近の嘆き

総選挙の民主党惨敗で退陣した野田佳彦前首相の側近として、政界を走り回った人物がいる。

神蔵孝之氏(56)。松下政経塾の2期生で、野田氏の1期後輩。20年以上の付き合いだ。東京でIT企業を経営しながら、野田氏の助言役を務めてきた。

野田政権にとって最大の難所だった消費税増税をめぐる与野党折衝の時は、民主、自民両党の話し合いや首相官邸と財務省との調整に、裏方として汗をかいた。

「野田さんには、このままの財政では日本が破綻してしまうという危機感が強かったが、国民に伝えきれなかった」と振り返る。

野田氏の誤算は何だったのか。

「昨年8月、自民党の谷垣禎一総裁と『近いうち解散』で合意した段階で、野田さんは9月解散を決意していた。選挙の結果、谷垣氏が首相になっても構わないと覚悟していた。ところが、参院で首相問責決議が可決され、話し合い解散の空気が吹っ飛んでしまった。自民党で谷垣おろしが進み、民主党内でも解散先送り論が強まった」

政治に「もし」は禁物だが、仮に9月解散なら、民主、自民、そして日本維新の会などの獲得議席はどうだったか。新政権の政策はどうなっていたか……。いろいろな思いを巡らせたくなる。

〈星浩〉